

支部通信

高知支部・高知星の會通信

高知星の會⁷生れて僅か3ヶ月餘、其の間多事多端の内に益々生長し、即ち、本年に入りては1月23日五藤齊三氏の來高1週間に亙り、縣下中等男女子學校天文巡回講演及び高知初等教育研究会後援のもとに講演會を開催。同月24日14時より高知市商工會議所樓上に於て「白晝星を觀るの會⁷」が開催されたが、巡回講演及び「白晝星を觀るの會⁷」發表が各新聞紙上を通じて縣下一般に知られた爲、非常なる衝動を與へた。2月56日には山本一清博士の來高を機として又々各新聞紙上を賑はし、高知新聞社後援同講堂に於て『宇宙論の改新』と題して有益なる天文講演會が開催されたが、聴衆者百數十名の盛會で、閉會後、山本博士を中心に座談會も開かれ大いに親睦の度を深めた。そもそも土佐藩主山内家は代々天文学の造詣深く同家に藏する地球儀、天球儀その他數點が山本博士の調査に依り、愈々縣下のアマチュアに關心を與へた。時期到來、此處に於て高知星の會は同月20日第1回總會を、事務所高知市播磨町井筒星階上に於て開催した。當日は19時より開會。十餘里の道をも遠しとせず出席した熱心なアマチュアもあつた。定刻、池氏の「星の會⁷」の經過及び會則案の報告あり。會長に篠崎長之氏を推薦したが、會長より各役員の推薦、會員の選舉に依り委員の決定を見た。猶顧問には山本一清博士、五藤齊三氏、高知商工會議所副會頭松山秀美氏を推薦した。副會長、赤松貞實氏。幹事、小澤國三郎、池廣太郎、正木健三、久保康則の4氏が任命され、會計には近森友喜氏と決定し、又、事業擔當として小澤、池兩氏が活動する事に決定した。將來は市の中心有力者の後援を求める可く、又内部には正木、久保兩氏の熱誠的な盡力と相俟つて遠大なる理想のもとに着々進出して居る。

本月22日より南國土佐大博覽會の開會を機として高知星の會管理に依る特設天文館の設置を見た。同館は白堊ドームの本式の天文館で屋上には地上用望遠鏡數臺設置して一般の觀望に供して居る。開期中45日間は大いに宣傳する方針である。高知星の會の3、4月は中々多忙である。(高知星の會)

大 阪 支 部 通 信 (2・3月)

■支部委員会並銀河編輯會議 2月23日夕伊達氏宅にて9名出席.

■支部報第20號 本部臨時總會案内市内100通, 府下兵庫縣下100通, 返信用葉書を封入して大阪・神戸兩支部員名簿作製資料とす.

■銀河第1卷第2號 表紙「電氣科學館案内圖」, 口繪寫眞「プラネタリウム機械」, 卷頭言「天文上の傳説について」山本一清, 「偶感」(宇宙と人生)津田, 「電氣科學館案内記」編輯部, 「プラネタリウムの今日まで」P. ランゲ, 「プラネタリウムの組立中を見る」西森, 「プラネタリウム雜想」宇野, 「星のぞき(2)」イグレッツク生, 「ダニエル彗星の檢出」清水眞一, 「木邊觀測所の30種星覗き」伊達, 「天文街を往く(2丁目)」天界漫歩士, 編輯後記, 本文50頁益々内容充實既刊.

大 阪 支 部 4 月 例 會

1. 日時 4月28日(天長節前日)18時半より
1. 場所 電氣科學館地階食堂別室(會費10錢)
1. 講演 「プラネタリウムの遊星軌道論」理學士 高木公三郎氏

會 告

新 名 譽 會 員 の 推 薦

去る3月7日, 大阪にて開かれたる臨時總會に於いて, 大阪市電氣科學館長小島康郎氏を名譽會員に推薦された。(會則第9條に依る)

編 輯 後 記

待望の火星接近も間近に迫つて來たので, 本號より火星の記事を載せる事とした. 公文氏の干涉計の話は目新しいが少し難解かも知れぬ. 兎に角, 硬軟取り混ぜて編輯する考へであるから御承知願ひ度い. 兩副會長よりの御挨拶は早くより頂戴してゐながら, 都合で遅れた事を御斷りする.(星見)